

驚きの

marvelous
museum
collections

博物館コレクション展

2013年2月2日(土)～3月17日(日)

開館時間 ■午前9時30分～午後5時(入場は午後4時30分まで)

休館日 ■月曜日(祝日の場合はその直後の平日)、第4火曜日

観覧料 ■一般600(500)円、高大生400(300)円、中学生以下無料

()内は20名以上の団体料金。

主催 ■名古屋市博物館、明治大学博物館、南山大学人類学博物館

協力 ■名古屋市立大学

時を超え、世界を駆ける好奇心

CURIOSITY ; beyond time, around the world

名古屋市博物館

〒467-0806 名古屋市瑞穂区瑞穂通 1-27-1

電話 052-853-2655 FAX 052-853-3636 <http://www.museum.city.nagoya.jp>

地下鉄桜通線「桜山」下車、南へ徒歩5分

市バス・地下鉄でのお出かけが便利でお得です

ドニチエコきっぷ・一日乗車券を利用してご来館の方は
観覧料100円割引!



明治大学博物館・南山大学人類学博物館・名古屋市博物館 合同企画
驚きの博物館コレクション展一時を超え、世界を駆ける好奇心

博物館という言葉から何をイメージしますか？ きっと何かを展示していて、それを見に行くところ、というイメージではないでしょうか？ そう、博物館にとって展示はたいせつな仕事です。でも、展示をするためにはコレクションがなければできません。

コレクションの対象は、森羅万象—この世界に存在する(あるいは存在した)すべてのことがら。もちろん一つの博物館ですべてを集めることはできませんから、それぞれの博物館は特定の分野、特定の地域などといった枠組みを決めて資料を収集しているのです。

この展覧会では、明治大学博物館と南山大学人類学博物館という二つの大学博物館と名古屋市博物館のコレクションの一端をご紹介します。3つの博物館のコレクションをもとに、身近な名古屋の歴史から日本のみならず世界に至る人間活動を、時空を超えてご覧いただきます。

そのキーワードはズバリ「驚き」。先人たちと同じように「こんなものがある！」と驚き、「こんなものまで収集している！」とその執念に驚き、「こんなことがわかるんだ！」とその探究心に驚かされるのです。

盛りだくさんの博物館コレクションをご覧いただき、これらのものにまつわるもろもろを、ぜひとも、驚きながら、お楽しみください。

石器は石を打ち欠いて作られます。もし、打ち欠かれてきた石のかけら(剥片といいますが)が全部集まったら・・・、そう、元の石のかたちになるはずですが。

昭和41年(1966)と昭和48年(1973)に、明治大学考古学研究室により発掘された埼玉県砂川遺跡では、20点以上の石器や剥片が互いにくっついて元の石のかたちが推定できる資料が数個出土しています。これらの資料は旧石器時代の石器の作り方や石器を使っていた人々の生活の解明に大きく役立ちました。出土した石器は国指定重要文化財に指定されています。



南山大学人類学博物館には、千葉県・茨城県など関東地方の縄文時代の土器が数多くコレクションされています。これは日本考古学研究所という研究所が調査して出土した資料です。日本人研究者とともに研究所を設立してその中心となったのが、オランダ人神父のジェラード・クロート師。カトリックの布教のために日本を訪れ、日本の言語・文学・歴史を学ぶうちに、日本の考古学に強い関心を抱くようになり、ついには研究所を設立したのです。

もともとは考古学者ではなかったのですが、日本で研究を続け、帰国後も縄文時代をテーマとした博士論文を提出しています。

驚きの展示資料
 ちよつとご紹介。

かのルイ16世やその妻マリー・アントワネットも処刑されたギロチン。ギロチンは人道的な見地からフランス革命期に発明された処刑道具。処刑される人が苦しむことなく刑を執行できるよう発明されたといわれます。あまりにあっけなく執行できたためか、フランス革命時の混乱のためか、パリだけでわずか7年の間におよそ3,000人の人が犠牲になっています。

明治大学博物館の前身の一つである明治大学刑事博物館は、昭和4年(1929)に設立され、テーマのひとつに「人権抑圧の歴史を語り伝える資料」のコレクションがあります。このギロチン(復元品)は刑事博物館設立当初からのコレクションです。



名古屋市の西志賀遺跡周辺で土器などが見つかることは江戸時代の記録にも残されていますが、考古学的な遺跡として意識されたのは昭和に入ってからでした。最初に調査をしたのは愛知県史跡名勝天然記念物調査会の小栗鉄次郎。以後、多くの人々がこの遺跡の調査を行いました。昭和18年には明治大学の杉原荘介も調査を行っています。小栗は単に調査をし、収集するだけではなく、散逸しそうな資料を私費で集め、自宅に保管しました。この弥生時代の大きな壺もその一つです。小栗の収集した資料は、現在、名古屋市博物館の考古資料の大きな柱となっています(受託資料を含む)。



■おもて面の写真について

おもて面の写真は、この展覧会で展示する明治大学博物館・南山大学博物館・名古屋市博物館のコレクションで構成しています。下の図のシルエットの色で所蔵館を示しています。

■明治大学博物館 ■南山大学人類学博物館 ■名古屋市博物館(受託資料を含む)

1: 貝殻で装飾された仮面(バブアニューギニア)、2: 『徳川幕府刑事図譜』捕縛之図(明治26年・1893)、3: ケナガマンモスの頭骨(レプリカ)、4: 首飾り(ホー族)、5: 接合した石器(埼玉県砂川遺跡、旧石器時代、重要文化財)、6: トカゲ形骨角製品(レプリカ、フランス・ロジュリール遺跡、旧石器時代)、7: 女性上衣(リス族)、8: 石斧(群馬県岩宿遺跡、旧石器時代、重要文化財)、9: 深鉢(神奈川県夏島貝塚、縄文時代、重要文化財)、10: ギロチン(復元品)、11: 儀礼用石斧(バブアニューギニア)、12: 杏葉(ぎょうよう、名古屋市大須二子山古墳、古墳時代、名古屋市指定文化財)、13: 顔面付土器(栃木県出流原遺跡出土、弥生時代、重要文化財)、14: 根付(鉈にいらまれた蛙)(江戸期～明治期)、15: 十手(江戸時代)、16: バイフェイス(フランス・モンティエル遺跡、旧石器時代)、17: 『教訓いろはたとへ』歌川芳盛(文久2年・1862)、18: 壺(名古屋市西志賀遺跡、弥生時代、受託資料)、19: 火踊りの被り面(ニューブリテン島、バブアニューギニア)、20: ニュルンベルグの鉄の処女(復元品)、背景も、21: 馬形埴輪(茨城県玉里舟塚古墳、古墳時代)、22: 深鉢(千葉県姥山貝塚、縄文時代)、23: 『刑罪大秘録』から(江戸後期)、24: 『絵本音聞山』高力猿猴庵から(文政元年・1818)



講演会

場所: 博物館講堂(先着220名、聴講無料)

時間: 14時開演(13時30分開場) 12時30分から整理券配布

2月2日(土) 「明治大学考古学博物館のコレクション形成と西志賀貝塚の調査」 大塚初重氏(明治大学名誉教授)

2月17日(日) 「オセアニアの物質文化」 後藤明氏(南山大学教授)

ギャラリー・トーク

展示室で各館の担当者が展示資料の解説。聴講無料(要観覧券)。各日13時～と15時～の2回。各回先着20名程度。内容は各回異なります。

2月9日(土)・10日(日) 名古屋市博、2月16日(土) 南山大、2月23日(土)・24日(日) 明治大、3月2日(土)・3日(日) 名古屋市博、3月9日(土)・10日(日) 南山大、3月16日(土)・17日(日) 明治大

ワークショップ

場所: 博物館展示説明室/時間: 10時～12時/定員: 各回15名

申込み方法: 往復はがき(1通につき1講座のみ)、または名古屋市電子申請サービス <https://www.e-shinsei.city.nagoya.jp/> で応募ください。

2月9日(土) 「和本をつくろう」名古屋市博物館 江戸時代の代表的な製本法である袋とじで和本づくりを体験していただきます。

2月16日(土) 「土器にさわろう」南山大学人類学博物館 縄文土器や弥生土器に触れながら、土器に親しんでいただきます。